

## エンタープライズサーバ「EP8000 シリーズ」に 最新プロセッサ POWER5 を搭載したハイエンドモデルをラインアップに追加



EP8000 595

日立製作所 情報・通信グループ(グループ長&CEO:古川 一夫、以下、日立)は、このたび、高性能・高信頼のミッションクリティカルなエンタープライズサーバ「EP8000 シリーズ」に最新プロセッサ POWER5 を搭載し、処理性能を大幅に強化したハイエンドモデル「EP8000 595」「EP8000 590」をラインアップに追加し、11月5日から販売開始します。

EP8000 シリーズは、米国 IBM 社の UNIX オペレーティングシステム(OS)である AIX 5L を搭載した UNIX サーバです。

今回、販売開始する「EP8000 595」は、最大搭載プロセッサ数が、従来機「EP8000 690」と比較して、SMP 構成 2 倍の最大 64way まで搭載可能で、OLTP<sup>\*1</sup> 性能では最大約 3 倍(SMT<sup>\*2</sup> 使用時)の業界最高水準の性能を発揮する最上位モデルです。「EP8000 590」は、SMP 構成で最大 32way まで搭載可能で、同じく従来機に比べ、OLTP 性能では最大約 1.5 倍(SMT 使用時)を実現します。

今回の製品は、最新版 OS「AIX 5L version 5.3」との組み合わせにより、「EP8000 690」に比べ、処理性能の向上に加え、ハードウェア資源仮想化機能およびオンデマンド機能の大幅な強化を図っています。これらにより、システムリソースの有効活用ができ、TCO の削減とビジネス規模の変化への迅速な対応を実現します。

また、今回同時に、「EP8000 550」「EP8000 520」に、1.5GHz のプロセッサ POWER5 を搭載したモデルも新たに製品化し、高信頼性でありながら、低価格なエントリーモデルの品揃えを充実します。

\*1) OLTP: On-Line Transaction Processing

\*2) SMT: Simultaneous Multi-Threading

今回の製品群の追加で、「EP8000 シリーズ」は、ワークグループサーバなどの小規模システムから全社レベルの大規模基幹システムまで、様々な顧客ニーズにより幅広く対応し、これからの情報化社会の基盤を支えるプラットフォームとして利用できます。

なお、「EP8000 シリーズ」は、お客様がリソースをコアビジネスに集中し、高信頼性かつビジネスの変化に即応した最適なシステムを構築できる環境を提供する日立のサービスプラットフォームコンセプト「Harmonious Computing」に基づいています。

## 新製品の概要

モデル	形状	プロセッサ (周波数)	プロセッサ 数	キャッシュメモリ	メモリ容量	拡張 PCI スロット数
EP8000 595	専用ラックマウント	POWER5 (1.65/1.9GHz)	16 ~ 64		8GB ~ 2TB	最大 240
EP8000 590	専用ラックマウント	POWER5 (1.65GHz)	8 ~ 32	レベル 2 キャッシュ: 1.9MB レベル 3 キャッシュ: 36MB	8GB ~ 1TB	最大 160
EP8000 550 (1.5GHz)	ラックマウント /タワー	POWER5 (1.5GHz)	1 ~ 4	(2 プロセッサあたり)	512MB ~ 64GB	最大 61
EP8000 520 (1.5GHz)	ラックマウント /タワー	POWER5 (1.5GHz)	1 ~ 2		512MB ~ 32GB	最大 34

## 新製品の価格・出荷時期

モデル	形状	価格	出荷時期
EP8000 595	専用ラックマウント	159,194,700 円 <sup>*3</sup> ~ (税抜 151,614,000 円 ~)	2004 年 12 月 24 日
EP8000 590	専用ラックマウント	87,487,050 円 <sup>*4</sup> ~ (税抜 83,321,000 円 ~)	2004 年 12 月 24 日
EP8000 550 (1.5GHz)	ラックマウント /タワー	2,012,850 円 <sup>*5</sup> ~ (税抜 1,917,000 円 ~)	2004 年 11 月 30 日
EP8000 520 (1.5GHz)	ラックマウント /タワー	1,114,050 円 <sup>*5</sup> ~ (税抜 1,061,000 円 ~)	2004 年 11 月 30 日

\*3) 構成: POWER5(1.65GHz) × 16way、8GB、HDD: 72.8GB、AIX 5L、管理コンソール

\*4) 構成: POWER5(1.65GHz) × 8way、8GB、HDD: 72.8GB、AIX 5L、管理コンソール

\*5) 構成: POWER5(1.5GHz) × 1way、メモリー: 512MB、HDD: 36.4GB、AIX 5L

## 他社商標注記

- ・AIX、IBM は、米国における米国 International Business Machines Corp.の登録商標です。
- ・POWER5 は、米国における米国 International Business Machines Corp.の商標です。
- ・UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。
- ・その他記載の会社名、製品名はそれぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

## 製品情報

<http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/EP8000>

## 取扱事業部・照会先

株式会社 日立製作所 情報・通信グループ  
 エンタープライズサーバ事業部 企画部 【担当: 喜多村】  
 〒259 - 1392 神奈川県秦野市堀山下1番地  
 電話: 0463 - 87 - 6786(ダイヤルイン)

以上

## 添付別紙

新ハイエンドモデル「EP8000 595」「EP8000 590」の特長

### 1. 最新プロセッサを搭載し処理性能を大幅強化

「EP8000 595」「EP8000 590」は最新プロセッサ POWER5 を搭載した新世代のハイエンドサーバです。

「EP8000 595」では、プロセッサ数を従来のハイエンドモデル「EP8000 690」の2倍に増強し、SMP<sup>\*1</sup>構成で POWER5 (1.65/1.9GHz)を最大 64way まで搭載可能となっています。また「EP8000 590」では、POWER5 (1.65GHz)を「EP8000 690」と同じく最大 32way まで搭載可能です。

「EP8000 595」「EP8000 590」に搭載されるプロセッサ POWER5 は、プロセッサの利用効率を高める SMT (Simultaneous Multi-Threading)など最新の技術を採用し大幅な性能向上を実現した最新のプロセッサです。SMT は、1つのプロセッサを論理的に2つのプロセッサとして利用することができる技術で、これによりプロセッサあたり約 20%~40%の実効性能向上を実現します。

最新プロセッサの採用、搭載プロセッサ数の増強などにより、OLTP<sup>\*2</sup>性能で POWER4+ (1.9GHz)を搭載した従来モデルの「EP8000 690」に比べ、「EP8000 595」では最大約3倍(SMT使用時)の性能向上を実現、業界最高水準の性能を発揮します。「EP8000 590」では最大約1.5倍(SMT使用時)の性能向上を実現しています。

\*1) SMP: Symmetric Multi-Processor

\*2) OLTP: On-Line Transaction Processing

### 2. 優れたシステム拡張性

高い処理性能に加え、「EP8000 595」「EP8000 590」は非常に優れたシステム拡張性を備えています。

「EP8000 595」では、メモリは「EP8000 690」の最大 1TB に対し2倍の最大 2TB<sup>\*3</sup>まで、PCI スロットは「EP8000 690」の最大 160 スロットに対し1.5倍の最大 240 スロットまで増強することができ、拡張性においても「EP8000 690」より大幅に強化されています。

「EP8000 590」では、「EP8000 690」と同じくメモリは最大 1TB<sup>\*3</sup>まで、PCI スロットは 160 スロットまで拡張することができます。

「EP8000 595」「EP8000 590」は、大規模業務システムから大規模データベース、OLTP、データウェアハウス、さらには多数のサーバを統合する大規模なサーバコンソリデーションなどに最適なモデルです。

\*3) 2005 年度第一四半期サポート予定。それまでは 595 は最大 1TB、590 は最大 512GB となります

### 3. 最新のソフトウェア環境を提供

「EP8000 595」「EP8000 590」は、最新版 OS 「AIX 5L version 5.3」に対応しています。「AIX 5L version 5.3」は、マイクロパーティショニング、LAN 仮想化/ストレージ仮想化などのハードウェア資源仮想化機能、および新しいオンデマンド機能などをサポートしており、POWER5 搭載モデルの性能・機能を最大限に引き出します。

もちろん従来の AIX 5L 同様、優れたパフォーマンス、信頼性・可用性、Linux との高い親和性に加え、セキュリティや Java 実行環境などネットビジネス構築のためのオープンかつミッションクリティカルな基盤機能を提供。ミドルウェア/アプリケーションには、基幹業務システムで実績のある日立オープンミドルウェアに加え、DBMS<sup>\*4</sup>製品 Oracle<sup>R</sup>や SAP<sup>R</sup> R/3<sup>R</sup>を含む SAP の E ビジネスプラットフォーム mySAP.com<sup>R</sup>など豊富な ISV<sup>\*5</sup>製品がご利用頂け、幅広いニーズに対応したシステムを構築することが可能です。

\*4) DBMS: Database Management System

\*5) ISV: Independent Software Vendor

#### 4. ハードウェア資源仮想化機能、オンデマンド機能を強化

「EP8000 595」「EP8000 590」では、「AIX 5L version 5.3」との組み合わせにより、ハードウェア資源仮想化機能の強化、オンデマンド機能の強化を図っています。

ハードウェア資源仮想化機能の強化では、システムリソースを動的に複数のパーティションに割り当てることができる動的論理分割機能(Dynamic LPAR<sup>\*6</sup>)を強化しました。

従来モデルの「EP8000 690」では、パーティションへのプロセッサ性能の割当ては 1 プロセッサ単位で、最大 32 パーティションまでの分割が可能でしたが、「EP8000 595」「EP8000 590」ではマイクロパーティショニング機能により 1/10 プロセッサという論理的な単位できめ細かく、かつ負荷に応じて自動的にパーティション間のプロセッサ能力の割当てを行なえるようになり、最大パーティション数も 254 パーティションと「EP8000 690」に比べ大幅に機能強化されています。

さらに、パーティション間での LAN アダプタ、ディスク/ディスク接続アダプタの共有や、パーティション間高速通信を可能とする LAN 仮想化・ストレージ仮想化の機能もサポートしています。

これらハードウェア資源仮想化機能により、プロセッサ性能のより有効な活用、容易かつ迅速なパーティション間での LAN/ディスクの増設・構成変更が可能となりシステムの TCO 削減を実現します。

また、オンデマンド機能の強化では、お客様の業務量に応じて段階的にプロセッサの処理能力を増強できる CUoD<sup>\*7</sup> 機能に加え、ビジネス環境の変化に迅速に対応できるリザーブ CoD<sup>\*8</sup> 機能を新たにサポートしています。業務負荷にあわせ必要な期間だけ一時的にシステムの処理能力を増強することが可能なため、お客様のハードウェア資源の投資を最適化することができます。

\*6) LPAR: Logical Partition

\*7) CUoD: Capacity Upgrade on Demand

\*8) CoD: Capacity on Demand

#### 5. メインフレームクラスの信頼性と可用性

「EP8000 595」「EP8000 590」は、「EP8000 690」がサポートしていた動的プロセッサ切り離し機能、PCI バス障害回復機能、動的 PCI アダプタ切り離し機能などに加え、PCI ブリッジ障害によるシステムリブートを回避しシステムの処理を続行する PCI ブリッジ動的切り離し機能、ファームウェアの短時間更新などの高信頼化機能をサポートしています。これによりシステム停止につながる障害発生を大幅に低減します。

また、EP8000 シリーズではハードウェアとしてだけではなく、システムとしても高い信頼性・可用性を備えています。

高可用性ソフトウェア HA モニタとスケーラブルデータベース HiRDB によるクラスタ構成において、現用系システムの OS 障害発生と同期した待機系システムへの即時切替通知や、現用系システムから待機系システムへの共有ディスクの高速切替えを実現するソフトウェア HA Booster Pack for AIX を用いることにより、従来、数分オーダの時間を必要とした障害時のシステム系切替を 10 数秒という極めて短い時間に実行することができます。

「EP8000 595」「EP8000 590」は非常に高いミッションクリティカル性を要求されるシステムにも十分に対応し、お客様の業務システムとビジネスに、「安心」と「発展」を提供します。

#### エントリーモデル「EP8000 550(1.5GHz)」「EP8000 520(1.5GHz)」の特長

POWER5搭載の4wayエントリーモデル「EP8000 550」、2wayエントリーモデル「EP8000 520」において、現行の POWER5(1.65GHz)搭載モデルに加え、POWER5(1.5GHz)を採用し、価格性能比を向上させた製品をラインアップに追加しました。「EP8000 550」「EP8000 520」は、エントリーモデルながら、ハイエンドモデルと同等の高信頼化機能や、ミッドレンジクラスの I/O 拡張性を備えており、小規模から中規模の業務システム、データベースなどに最適なサーバです。

今回の製品追加により、高性能、高信頼なシステムをより低価格で導入いただけます。

#### 高信頼性を支える多彩なサポートサービス

EP8000 のサポートサービスでは、お客様のニーズに対応したハードウェア、OS 一体のトータルサービスをワンストップで提供します。

問合せ応答、問題解決支援、更新版提供、予防保守情報提供などの基本サービスに、環境ヘルスチェックや万一の障害発生時の迅速な復旧支援や対策、長期保証(OSバージョン固定の長期保守サービス)といった高度サポートサービスオプション商品を自由に組み合わせて選択することができます。

これにより、サービスレベルやオプションメニューを柔軟に組み合わせ、お客様のシステムに合った最適なサービスを提供します。

#### 他社所有商標に関する表示

- ・AIX、IBM は、米国における米国 International Business Machines Corp.の登録商標です。
- ・Java 及びすべての Java 関連の商標及びロゴは、米国及びその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc.の商標または登録商標です。
- ・Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。
- ・Oracle は、Oracle Corporation の登録商標です。
- ・POWER4+、POWER5 は、米国における米国 International Business Machines Corp.の商標です。
- ・SAP(R)、R/3(R)、mySAP.com(R)は、SAP AG のドイツ及びその他の国における登録商標または商標です。
- ・UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

新製品の仕様

モデル		EP8000 590	EP8000 595
形状		専用ラック筐体	
プロセッサ	プロセッサ名称	POWER5	POWER5
	クロック・レート (GHz)	1.65	1.65/1.9
	プロセッサ数 (way)	8 ~ 32	16 ~ 64
レベル2キャッシュ(MB *1)		1.9 (2プロセッサあたり)	1.9 (2プロセッサあたり)
レベル3キャッシュ(MB *1)		36 (2プロセッサあたり)	36 (2プロセッサあたり)
主記憶容量	最小 ~ 最大(GB) *1	8 ~ 1,024 *3	8 ~ 2,048 *4
内蔵ディスク容量	最小 ~ 最大(GB) *2	72.8 ~ 9,395.2 *5	72.8 ~ 14,092.8 *6
拡張PCI-Xスロット本数		20 (I/Oドローアあたり)	
I/Oドローア数		1 ~ 8	1 ~ 12
外形寸法 (W×D×H:mm)	搭載筐体	785×1,681×2,025 (1ラック構成) 1,575×1,681×2,025 (2ラック構成)	
	電源(V)	200 ~ 240 (三相)	
省エネ法に 基づく表示	エネルギー消費効率	0.188	0.097
	区分	C	C
搭載OS		AIX 5L version 5.2 または AIX 5L version 5.3	

モデル		EP8000 520 (1.5GHz)		EP8000 550 (1.5GHz)	
形状		タワー	ラックマウント	タワー	ラックマウント
プロセッサ	プロセッサ名称	POWER5		POWER5	
	クロック・レート(GHz)	1.5		1.5	
	プロセッサ数(way)	1 ~ 2		1 ~ 4	
レベル2キャッシュ(MB *1)		1.9 (2プロセッサあたり) *7		1.9 (2プロセッサあたり) *7	
レベル3キャッシュ(MB *1)		36 (2プロセッサあたり) *8		36 (2プロセッサあたり) *8	
主記憶容量	最小 ~ 最大(GB) *1	0.5 ~ 32		0.5 ~ 64 *9	
内蔵ディスク容量	最小 ~ 最大(GB) *2	36.4 ~ 1,174.4	36.4 ~ 8,220.8 *10	36.4 ~ 1,174.4	36.4 ~ 15,267.2 *11
拡張PCI-Xスロット本数		6	6 ~ 34 *10	5	5 ~ 61 *11
I/Oドローア数		-	0 ~ 4	-	0 ~ 8
外形寸法 (W×D×H:mm)	CPUドローア	-	437×508×178 (4EIA *12)	-	437×731×178 (4EIA *12)
	I/Oドローア	-	482×610×178 (4EIA *12)	-	482×610×178 (4EIA *12)
	搭載筐体	203×584×537	標準ラック筐体/ 低層ラック筐体 *13	201×779×533	標準ラック筐体/ 低層ラック筐体 *13
電源(V)		100 ~ 127/200 ~ 240 (単相)		100 ~ 127 *14/200 ~ 240 (単相)	
省エネ法に 基づく表示	エネルギー消費効率	0.040		0.047	
	区分	F		F	
搭載OS		AIX 5L version 5.2 または AIX 5L version 5.3			

エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定された消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。

\*1: 1MB(メガバイト)=1,024<sup>2</sup> バイト, 1GB(ギガバイト)=1,024<sup>3</sup> バイトです。

\*2: 1GB(ギガバイト)=1,000<sup>3</sup> バイトです。

\*3: 2005年度第一四半期サポート予定。それまでは最大512GB。

\*4: 2005年度第一四半期サポート予定。それまでは最大1,024GB。

\*5: I/Oドローア8台接続時。

\*6: I/Oドローア12台接続時。

\*7: 1wayの場合は1プロセッサあたり。

\*8: 1wayの場合は0です。

\*9: 1wayの場合は32GBまで。

\*10: I/Oドローア4台接続時。

\*11: I/Oドローア8台接続時。

\*12: ラック搭載時の占有サイズ(1EIA=高さ約44.5mm)。

\*13: ラック筐体は、下記のうちから選択できます。

23EIAラック筐体(格納サイズ23EIA)外形寸法 647×1,104×1,193(W×D×H:mm)

36EIAラック筐体(格納サイズ36EIA)外形寸法 647×1,104×1,798(W×D×H:mm)

42EIAラック筐体(格納サイズ42EIA)外形寸法 647×1,104×2,015(W×D×H:mm)

\*14: 1wayおよび2way構成時のみ。

以上

---

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。

---